令和４年度 佐那河内小学校・中学校学校評価アンケートについて

１　小学校

今年度も，新型コロナウィルス感染症による教育活動への制限がかかる１年でした。そのような状況の中でも，全教職員で「思考力・表現力を高める授業づくり」「主体的に学習する力を伸ばす手立ての工夫」をめざし，創意工夫をして，「特色」と「魅力」ある小中一貫教育校として９年間を見通した教育活動に取り組んできました。小中合同研修会の充実や小中相互の授業を参観することで研究を深めてきました。また，一人一台タブレット端末の効果的な活用やプログラミング学習への取り組みの成果が今後論理的な思考力の向上に繋がることを期待しています。

アンケート結果は，２２項目中１９項目で８０％以上の肯定的な評価をいただきました。特に「学校は，電子黒板やタブレットを活用した授業や家庭学習等に努めている」「安全教育や避難訓練を実施し，児童の安全に積極的に取り組んでいる」の２項目については，９５％以上の高い評価をいただきました。また，児童の意識調査を昨年度と比べてみても，「授業がわかりやすく楽しい」をはじめ，多くの項目でよい意味での変容がその結果の裏付けとなっています。今後も，児童が楽しく，安全・安心に過ごすことができる環境づくりに努めるとともに，ＩＣＴを効果的に活用した授業の充実，行事や体験的な活動を通して，時代に必要な資質や能力，また，いじめを許さず，豊かな心をもった児童を育んでまいりたいと思います。

その一方で，昨年度よりも肯定的評価の割合は上がったものの，「児童は進んで読書をしている」は５０％台の評価となっています。しかし，児童の意識調査や図書室での児童の状況をみておりますと，今年度は，昨年度以上にかなり読書に親しんでおり，図書担当の教員が，図書館便りを発行したり，校種間での読み聞かせを企画したり，様々なフェアやイベントを開催したりすることで，読書活動充実につながってきているので，ご家庭へ学校の様子を確実に伝えられるよう努力していく必要があると感じます。また，昨年度は８５％以上の肯定的な評価をいただいた「児童は，よくあいさつができる」が７０％台へと，昨年度と比べると肯定的な評価が減少しましたが，児童会を主体としたあいさつ運動を朝行っていて，児童の意識調査を見ると，肯定的評価が多く，朝のあいさつは習慣化してきています。ただ，個人差もみられるので，引き続きあいさつの意義の指導，また家庭や地域でのあいさつの励行等を含めて，全校で取り組んでいく雰囲気をより一層醸成していきたいと考えています。

来年度は，これまで以上に，教育目標や教育方針，授業や行事のホームページへの掲載等，さまざまな方法で学校での活動の様子をしっかりとお知らせするなどの工夫をしていくことで，地域に根ざした信頼される学校づくりを進めていきたいと思います。

来年度も，小中一貫教育校として９年間を通した系統的なつながりをさらに構築できるよう，全教職員で努めてまいりたいと思います。

２　中学校

今年度も「特色」と「魅力」ある小中一貫教育校として「ふるさと学習」,「英語教育」と「ＩＣＴを活用した教育」の三本柱とし，９年間を通してすべての児童生徒の可能性を最大限に伸ばすことをめざしています。

「ふるさと学習」では，中学２年生が「『私たちの宝　佐那河内村』　～村への提言プロジェクトⅤ～　とくしまマルシェ出店を通して」をテーマに学習を進め，２月には発表会を開催しました。生徒の伝える力，プレゼン力の向上にもつながりました。

「英語教育」では，工夫されたスタートカリキュラムにより小学校英語から中学校英語へとスムーズに接続できており，テレビ電話を利用した海外居住者との双方向でのやりとりを行うことにより，英語に対する興味関心を高め，実践的な力の定着をめざしました。英語検定に３３名が受験し，中学３年生の９割以上が３級以上を合格するなど生徒の意欲が向上しています。

「ＩＣＴを活用した教育」では，授業における電子黒板，一人一台のタブレットの活用はもちろんのこと，タブレットの持ち帰りを日常化する取り組みを進めました。新型コロナウィルス感染症による影響は少なくなりつつありますが，登校できない生徒に対してはオンライン学習も必要に応じて取り組みました。

今回の保護者の皆様へのアンケートの結果としては，２４項目中９項目で８０％を超える肯定的な意見をいただきました。「生徒は，進んで学習している」「学校は，楽しくわかりやすい授業の展開に努めている」という項目が昨年度よりもより多くの肯定的な意見をいただきました。特に学力向上に関しては，電子黒板やタブレットを使用した授業実践がさらにすすめられたことや放課後や休み時間を利用した学習支援が高い評価へつながったと考えられます。さらに昨年度に引き続き，文部科学省が進めるＧＩＧＡスクール構想で，全国で活躍されている講師の方１名による教職員研修を実施し，教員の指導力向上にも努めた結果であると考えられます。

一方で，「生徒は，進んで読書している」の項目については，他の項目に比べたら，肯定的評価は高くはないのですが，実際のところ，小学校同様，小中連携して多彩なアイデアで読書活動充実に向けて取り組んでおり，教室や図書室で読書している様子を家庭へ伝える努力をしていく必要があると感じます。

また，「生徒は睡眠，食事，運動など，健康に気をつけた生活を送っている」の項目について否定的なご意見が１０％以上増加しています。コロナ禍でもあり，これらの健康面については，養護教諭を中心として全校集会での伝達，様々な工夫された取り組み，掲示物を通して頻繁に啓発活動を進めています。ご家庭での取り組みも重要であることから，保健室だより等の活用をさらに進め，家庭への啓発ができたらと考えています。来年度も全教職員で共通理解を図り，特色と魅力あふれる小中一貫教育校をめざして取り組んでまいります。

３　おわりに

　この評価結果及び皆様からいただきましたご意見を，次年度の学校運営につなげていきたいと考えています。今後とも，本校の教育活動に対しまして御支援・御鞭撻をお願い申し上げます。